**○○○○専攻　○○○○講座**

**○○○○研究グループ（○○研）**

教員氏名(游ゴシック10pt)、〇〇 〇〇、〇〇 〇

タイトル（游ゴシック12pt）20字以内○○○

　本文（游ゴシック10pt）400-600字程度。○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

写真をお願いします。灰色の枠内に収まっていれば、本文の文字数・レイアウトを適宜調整していただいて問題ありません。

　○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

　○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

記入例

**応用物質化学専攻　応用物理化学講座**

**触媒設計学研究グループ（薩摩研）**

薩摩 篤、沢邊 恭一、織田 晃

シングルアトム触媒

　本年度の研究室は教員3名、事務員1名、院生11名、学部生5名の構成です。昨年までオンライン一辺倒であった学会も、対面会議が回復しつつあり、富山での触媒学会が3年ぶりに対面で実施されました。何故か新型コロナ感染の波の谷間に開催される石油学会は、今年も対面で長野にて開催されます。このまま順調に「アフターコロナ」時代がやってくることを切に願っています。ソフトボールやサッカーで身体も鍛えないと、研究も小粒になってしまいます。

写真

　そういった影響か最近の研究対象は究極の小粒、単原子(シングルアトム)触媒の仕事が多くなってきました。金属酸化物担体表面、合金表面、あるいはゼオライト中に固定したシングルアトムを、選択酸化反応、水素キャリアの水素化・脱水素、窒素酸化物の吸着や還元反応などの資源・環境問題解決のための触媒反応に展開しています。貴金属を100％分散させて効率的に使うと共に、ユニークな反応場の創成を目指しています。OB, OGの皆様には学会の会場やオンラインリクルートなどでお会いし、そのご活躍を直接伺うことが多くなってきました。皆様のご健勝を祈念しております。